



中石田神明神社の歴史

(和霊神社由来記・大岡の神社誌、併記 史話と伝説より)

当神社境内（拝殿奥）本殿には、**神明神社**（中央）、**山神社**（右側）、**和霊神社**（左側）の三社が祀られている。



和霊神社



神明神社



山神社

一、神明神社

祭神二座：天照大神・月夜見命を祀り正徳三癸酉年【1713】九月創建（徳川時代中期）とされ、御伊勢神宮と稱え奉り、時代の変遷と共に現在地に大正九年【1920】遷宮再建された。

一、山神社

江戸時代末期、弘化三丙午年【1846】に当区新小路の一角に創建されて、山仕事の安全と治水の神として地域村民の信仰を奉った神社で大正九年に当社へ遷宮、昭和四十七年十二月社殿を建築

一、和霊神社（別稍一御子霊神社）祭神

（一）、和霊尊神、秋田大和

宝永年間【1704～1710】に中石田大光寺境内鎮座せしが、後に明治維新となり、神仏混合廃止の流れと共に現在地北方の地に遷座したが東海道建設の為、大正十年【1887】再遷宮し昭和四十八年十二月 新社殿を建築された社

（二）、五ヶ村小作同盟功労者（和霊尊神）

（五ヶ村小作同盟功労者）明治十七年【1884】に中石田村、木瀬川村、上石田村、小林村、北小林村の地域農民の生活困窮打開の為、小作同盟を結成して和霊尊神の下に団結し、その年貢米の減額運動として活躍された四十一名を合祀されている。中心人物は中石田の鈴木半次郎・渡辺清太郎の両名で小作人に理解のあった関与右衛門（大岡村初代村長）の協力を得て、目的を達した。